

ボランティアへの支援策は

五十嵐 多喜子 議員



子育て支援は家族支援を
(イメージ)

答 公益的な活動を支援していく

問 少子社会と子育て支援において最近では「こんにちは赤ちゃん事業」「家庭的保育事業」がスタートした。支援が拡充しても子育てに関する不安は後をたたない。子育て支援を母親支援と同じ目線でいくと逆に母親を追い込むことになることも課題だ。子育て支援は母親支援と父親の意識変革を含めた家族支援であるべき。市は支援の柱をどこにおいているか。

子育て支援課長 子育て支援の中でも、特に地域や民間ボランティアの力で子育ての孤立化、不安を抱えている方へのサポートが大事と考える。ボランティアの形や市の支援もさまざま。人的、物的、運営費等。地域で行われている「子育てサロン」には運営費補助も行っている。

問 市が考えるボランティア支援策とは。

地域支援課長 公益的な活動に支援していく。市民の意見も入れ審査していく。

介護サービスを受けていない高齢者への支援を

問 介護ボランティアポイント制度、進捗状況は。健康づくり課長 65歳未満の方の活動との整合性、活動の範囲をどこまでするか今後の課題。慎重に検討したい。

飲酒運転撲滅運動のうねりを

山下 秀則 議員

答 各機関と連携し
取り組みを進める

問 福岡県飲酒運転撲滅条例は全国で初めて罰則付きで施行されたが、この条例を受けて市長の決意は。

市長 筑後市においても、筑後警察署、交通安全協会、学校等の関係と連携を図りながら、飲酒運転の撲滅に向けた取り組みをさらに進めていきたい。

問 アルコール依存症と飲酒運転との関係をどうとらえるか。

市長 飲酒運転の検挙者のうち、男性で約5割、女性で約4割にアルコール依存症の疑いがあるという調査結果が出ている。市の対策として、アルコール依存症が身体や精神に与える影響を検診や教室等で訴え啓発を行っていく。

きめ細やかな 精神疾患対策を

問 筑後市では、精神疾患の中でもうつ病の実態把握をしているか。

問 市の取り組みは。

市長 うつ病等の心の病に関する対策は市としては対応が難しい面もあるが、市民への情報提供や各種講座を通じた取り組み等を強化していく。

飲酒運転追放
今日のハンドルキーパーさんは?

ハンドルキーパー
ハンドルキーパーは、自動車仲間と飲食店などに行く場合にお酒を飲まないで、仲間を自宅まで送り届ける人のことです。
ハンドルキーパー運動に参加しませんか
飲んだら乗らない! 乗るなら飲まない!
(福岡県警察HPより)